男性も知っておきたい「女性のがん」

女性には女性だけがかかる特有のがんがあり、就労世代の女性は男性以上にがんへの注意が必要です。男性も女性のがんについて知っておき、予防・早期発見を支援できることが理想です。

監修
総合母子保健センター愛育病院
病院長　百枝 幹雄

※この記事では、女性特有のがんのうち、国が対策型がん検診（死亡率減少効果が確立し、公費助成があるもの）を推奨している乳がんと子宮頸がんを紹介しています。女性特有のがんには、この他に子宮体がんや卵巣がんなどもあり、かかる人も多いので注意が必要です。

就労世代の女性は男性よりもがんにかかるリスクが大きい

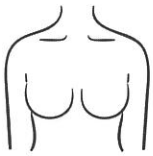
がんというとおおむね40歳台以降に増え始め、高齢になるほど増えていくイメージがありますが、女性特有のがんである乳がんや子宮頸がんは若い働く世代からかかりやすいという特徴があります。

この世代の女性は仕事だけでなく、結婚や妊娠・出産、子育てなどの時期でもあるため、そうした人生をがんにより大きく左右されるリスクを抱えているといえます。

女性特有のがん　どんな病気？

●乳がん

「乳腺」にできる悪性腫瘍です。女性ホルモンのエストロゲンが発病に深く関わるとされ、日本人女性の9人に1人がかかります。

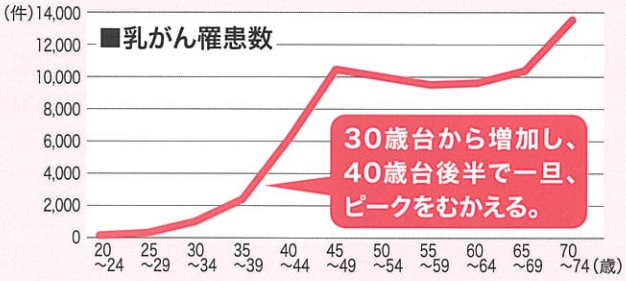


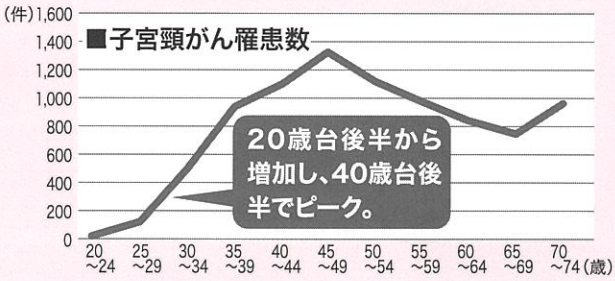
●子宮頸がん

子宮の入り口にできるがんで、主に性交渉により感染するヒトパピローマウイルス（HPV）に持続感染することで発病します。

男性も知っておきたいポイント

- 女性特有のがんがある（乳がん・子宮頸がん など）
- 女性は若いうちからがんにかかりやすい





出典：国立がん研究センターがん情報サービス・全国がん罹患データ（2021年）

女性が確実にがん検診を受けられるように

がんは完全には予防できないので、がん検診などで早期に発見することが重要です。乳がん・子宮頸がんともに早期に発見した場合の生存率は非常に高く、治りやすいがんだといえます。就労世代の女性は、仕事や子育てなどで忙しい中でもしっかり時間をとって、推奨されるがん検診（下記参照）を受ける必要があります。

男性も知っておきたいポイント

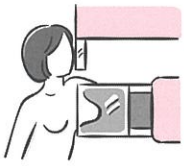
- 女性は受けなければいけないがん検診の数が多く、からだや時間の負担が大きい。
- 検診受診をすすめる、受ける時間をつくる協力をする。

女性のがん検診　こんなに大変！

●乳がん検診（マンモグラフィ）

【40歳以上・2年に1回】

- 乳房を板にはさむため痛みがある。（月経前は特に痛みが出やすい）



●子宮頸がん検診（細胞診）

【20歳以上・2年に1回】

- 痛みがある場合がある。
- 男性医師だと恥ずかしい。

- 男性より費用がかかる場合がある。検診の時間も長くなる。
- オプションであることが多いため、自分で選んで申し込まなくてはいけない。
- 子宮頸がん検診は月経中に受けられないため、受けられる時期が限られる。急に月経になってしまったときなど、キャンセル・再予約が大変。

費用や予定を組むのも大変…

※がん検診は、健保の健診のオプション検査や自治体実施のがん検診などで受けられます。
※30歳～60歳の子宮頸がん検診は、自治体によっては5年に1度のHPV検査の場合もあります。